

長畝ふるさと通信



【2023年4月号】

■ 暑いのか寒いのか・・・天候が怪しいぞ



例年なら4月15日のお祭りの時期に丁度満開を迎える桜が、今年は一週間も早く満開を迎えました。今年は田植えも早くなるぞと耕耘作業を急ピッチで進めていたのですが、後半になって急に寒くなりだして連日気温は20度を軽く下回る天気となっています。金北山の雪もいつもより残雪が多く残っていて北風がとにかく冷たい。5月1日から植える予定の苗も幾分生育が遅いようですが、予定を遅らせると結局後がつかえてしまうので、予定通り植えるつもりです。

コロナもなんとなく気にならなくなったおかげで飲食店も活気を取り戻したようですが、相変わらず安いコメばかりが重宝されるようで・・・小麦価格の高騰で「おにぎり」人気が高まっていると報道されていましたが、家庭でコメを炊く習慣はどんどん減っていきってしまうでしょうね・・・



■ 90年の願い

4月15日、今年も祭りの時期となりました。前日までの晴天とは打って変わって、朝から空は厚い雲に覆われ今にも降り出しそうなお天気です。祭りの幟旗は氏子総代が祭りの朝に上げること



になっているのですが、総代さんたちも高齢化で高所作業はできなくなり、代わりに鬼太鼓保存会の我々が旗を揚げることとなりました。旗には「昭和7年」と書かれており、今から90年も前のものだと判ります。当時の氏子さんたちはどんな思いでこの幟を上げていたのでしょうか。まさか、こんな出来の悪い子孫が上げているとは夢にも思っていないでしょうな・・・

右の写真は長畝集落で現存する唯一の「かやぶき屋根」のお宅での「門付」の様子です。立派なかやぶき屋根ですが、何年も前にこの家の主が新潟から職人を呼んできて、数か月の間自宅に民泊させながら葺いた屋根です。我が家もボクが13歳まではかやぶき屋根でしたが、改築してしまいました。昭和の風景が絶滅危惧種となってしまっています。とにかく祭りだけは絶やさず続けたいと思っています。



■ 人間の多様性は無限

佐渡市から子供たちの環境学習事業を請け負う活動をしている「佐渡生きもの語り研究所」の理事長に就任して1年が経ちました。10年前の研究所の立ち上げから理事として就任していましたが、



が、訳あって昨年からは理事長職を拝命しております。4月16日は今年度初めての活動で、田植えに向けて「種まき」をしました。祭りの翌日という最悪のコンディションの中、老体に鞭打って朝から活動に参加しました。今年度キッズ生きもの調査隊で1年間活動する子供たちは47人で、島内の色んな小学校から参加しています。

種まきはポット苗用の苗箱に1穴に種もみ3粒を入れていきます。キッズの田んぼは環境学習の場ということで「自然栽培」で行っているのので、有機栽培に適しているポット苗を使っています。通常我々が植える苗は「稚苗」といって1.5葉で田植えをするのですが、ポット苗は4.5葉の「成苗」まで大きくして田植えをするので、活着が良く深水管理ができるので田植え後も雑草が生えにくいという特性があります(小さな野菜苗を植えるより、鉢に入ってある程度大きくなった野菜苗の方が育ちやすいというイメージ)。一人ずつ苗箱の穴全てに種もみを「3粒」づつ入れるという単純な作業ですが、そのやり方は千差万別。ボクらの感覚からすると端から順に3粒づつ入れるイメージですが、ある者は全体にばら撒き、そのあとで数の調整をしたり、またある者は何の法則もなく



ランダムに自由すぎる種まきをしたりと正に多様性。これからが楽しみです。

● 4月から農協の就農支援で採用された実習生が来ています。実習期間は2年間、人手不足の折、有難いお話です。彼は佐渡最北端「鷲崎」出身の19歳で、ちょっと天然。「天然か？」と聞くと「いいえ、ボケです」と返ってくる。2年間で存分に鍛えてあげたいと思います。

■ 令和5年産米もよろしくお願いいたします

「雨ニモマケズ風ニモマケズ雪ニモ夏ノアツサニモマケヌ丈夫ナ稲ヲソダテマス」

「一日米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベマシヨウ」

